



SHIONOGI



塩野義製薬株式会社

〒541-0045

大阪市中央区道修町3丁目1番8号

TEL. 06-6202-2161

2023年4月5日

エコ・ファーストの約束

— 環境先進企業としての地球環境保全の取り組み —

環境大臣 西村 明宏 殿

塩野義製薬株式会社

代表取締役会長 兼 社長 手代木 功

SHIONOGI グループは、持続可能な社会の実現と当社グループの成長を支える重要課題の1つに「環境への配慮」を特定しています。当社グループの事業活動が環境におよぼす影響を精査し、その低減に取り組むことでヘルスケア企業グループとして社会的責任を果たし、SDGsの実現に貢献してまいります。

1. 『抗菌薬を取り扱う企業の責任として、自社のみならず』

サプライチェーン全体で抗菌薬製造時の環境排出を適正に管理します』

細菌などの病原体が、感染症薬の使用に伴い変異し、薬剤の効果が減弱することを薬剤耐性（AMR: Antimicrobial Resistance）といい、毎年、世界中で少なくとも約70万人が薬剤耐性菌への感染が原因で死亡していると言われています。このまま社会で何も対策が取られなければ、2050年の年間死亡者数は1,000万人を超えるとの予測もあり、AMRによる社会への深刻な影響が懸念されています。AMRを産み出す大きな要因としては抗菌薬の不適切な使用や過剰投与が挙げられますが、抗菌薬の製造過程における工場からの環境中への排出も耐性菌を生み出す要因の1つとして考えられています。

SHIONOGI グループは一般の化学物質の環境中への排出管理に加えて、抗菌薬を取り扱う企業の責任として、自社工場における抗菌薬排出管理体制を維持すると共に、関連サプライヤーに対しても抗菌薬製造時における環境排出の適正管理に関する監査（AMR 監査）とそのフィードバックを行い、サプライチェーン全体で抗菌薬環境排出を適正に管理することを進めており、社内外に以下の目標の浸透を図りその実現に取り組んでいます。

- 自社グループ工場の抗菌薬排出管理体制の維持とさらなる向上を図ります。
- 2024年度までに、すべての関連サプライヤーの初回 AMR 監査を完了することを目指します。
- 2030年度までに、監査のフォローアップを含めてサプライチェーン全体で抗菌薬製造時の環境排出の適正管理を目指します。

2.『地球温暖化を防ぎ、脱炭素社会を実現するため、

温室効果ガス（GHG）排出量の削減を推進します。』

SHIONOGI グループでは気候変動問題に対応するため、グループ目標に 2050 年のカーボン・ニュートラル実現を掲げ、その一環として SBT(2030 年目標)の認定を取得して GHG の排出削減に取り組んでいます。また、2022 年 3 月には TCFD への賛同を表明し、TCFD 提言に基づいた開示情報の充実を進めるとともに、自社グループのみならず主要なサプライヤーに対しても SHIONOGI の目標や取り組みの浸透を図り、実現に取り組んでいます。

- 2030 年までに、SHIONOGI グループの Scope1+2 の GHG 排出量を 2019 年度基準で 46.2%削減します。
- 2030 年までに、SHIONOGI グループの Scope3 カテゴリー1 の GHG 排出量を 2019 年度基準で 20%削減します。
- SHIONOGI グループの各事業所において、高効率設備の導入、設備の電化ならびに、再生可能エネルギー由来電力の積極的な導入を推進します。
- サプライヤーエンゲージメント推進体制を構築し、サプライチェーンエンゲージメントのプロセスを実行することで、GHG 排出量削減の取り組みをサプライチェーン全体に展開していきます。
- 2050 年までに、SHIONOGI グループのカーボン・ニュートラルを目指します。

3.『地球環境の保全のため、省資源・資源循環の取り組みを推進します。』

- 水資源の保護のために、製品の研究・開発・製造等の各プロセスにおいて、節水および排水管理（AMR 対策含む）に取り組めます。
- 容器包装資材の 3R(Reuse, Reduce, Recycle)+Renewable に取り組みます。
- ラベル台紙の水平リサイクル実証化の取り組みを通じ、製造工程における環境影響の低減に取り組めます。
- オフィスを含めた SHIONOGI グループ各事業所において、従業員一人一人が紙資源の節約および分別回収に取り組むと共に、物品購入時にはグリーン購入に努めます。

4.『希少生物の保護と次世代への教育を通じて、

生物多様性に配慮した取り組みを推進します。』

- 油日植物園において、環境省発行のレッドリストに該当する絶滅危惧種（約 60 種）を含めた希少種の保全に取り組めます。
- 油日植物園を活用し、次世代を担う子どもたちの教育支援の活動（出前授業、見学会等）を実施すると共に、従業員にも環境を含むサステナビリティについての教育を継続的に実施します。
- 昆布の森再生プロジェクトを通じて、絶滅の危機にある天然ガゴメ昆布の保護に取り組み、2024 年度には、天然ガゴメ昆布の使用量ゼロを目指します。

SHIONOGI グループは、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果について環境省への報告及び統合報告書・環境報告書等による公表を行ってまいります。